「結びの挨拶　2」　　2019 年 03 月 21 日

コロサイの信徒への手紙 4 章 12 節～18 節　あなたがたの一人、キリスト・イエスの僕エパフラスが、あなたがたによろしくと言っています。彼は、あなたがたが完全な者となり、神の御心をすべて確信しているようにと、いつもあなたがたのために熱心に祈っています。わたしは証言しますが、彼はあなたがたのため、またラオディキアとヒエラポリスの人々のために、非常に労苦しています。愛する医者ルカとデマスも、あなたがたによろしくと言っています。ラオディキアの兄弟たち、および、ニンファと彼女の家にある教会の人々によろしく伝えてください。この手紙があなたがたのところで読まれたら、ラオディキアの教会でも読まれるように、取り計らってください。また、ラオディキアから回って来る手紙を、あなたがたも読んでください。アルキポに、「主に結ばれた者としてゆだねられた務めに意を用い、それをよく果たすように」と伝えてください。わたしパウロが、自分の手で挨拶を記します。わたしが捕らわれの身であることを、心に留めてください。恵みがあなたがたと共にあるように。

「結びの挨拶」が続いている。「あなたがたの一人、キリスト・イエスの僕エパフラスが、あなたがたによろしくと言っています。彼は、あなたがたが完全な者となり、神の御心をすべて確信しているようにと、いつもあなたがたのために熱心に祈っています。」エパフラスはコロサイで、福音宣教を担い、コロサイ教会を建てた功労者である。彼は、開拓伝道者として、あなたがたが信仰において完全な者となり、神の御心を確信するように熱心に祈っている。コロサイ教会だけでなく、ラオディキアとヒエラポリスの人々のためにも非常に労苦しているイエス・キリストの僕である。「愛する医者ルカとデマスも、あなたがたによろしくと言っています。」ルカは、パウロの宣教協力者の医者であった。病弱なパウロの健康を支えたのはルカではなかったかと想像する。パウロがトロアスに下った夜、「パウロは幻を見た。その中で一人のマケドニア人が立って、『マケドニア州に渡って来て、わたしたちを助けてください』と言ってパウロに願った」と書かれている。この幻の声の主はルカではないかと言われている。そうすると、パウロをヨーロッパ宣教に引き出したのはルカということになる。ルカは、主イエスの活動、生涯を調べ、信仰を込めてルカ福音書を書いた。更に、聖霊降臨によって誕生した初代教会の人々は、どのような思いで宣教したか、また、尊敬するパウロの宣教活動について、使徒言行録を書き残した。ルカの功績は測りがたく大きいと言わなければならない。デマスは、この世を愛するようになり、信仰から離れた人らしい（Ⅱテモテ 4：10）。「ラオディキアの兄弟たち、および、ニンファと彼女の家にある教会の人々によろしく伝えてください。」当時の教会は、家庭を開放し、礼拝を守り、互いの信仰を育む「家の教会」であった。テント造りの職人であったアキラ、プリスキラ夫婦は、どこに住んでも「家の教会」を開き、信仰を支え合ったと伝えている。「この手紙があなたがたのところで読まれたら、ラオディキアの教会でも読まれるように、取り計らってください。また、ラオディキアから回って来る手紙を、あなたがたも読んでください。」手紙は回覧して読まれたのである。パウロの友人のアルキポに、委ねられた務めを果たすようにと伝えるように言っている。獄中のパウロが自分の手で、「心に留めてください」と書いている。「恵みがあなたがたと共にあるように」の祝祷で締めくくっている。